



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 東洋紡株式会社

コード番号 3101 URL <https://www.toyobo.co.jp/ir/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹内 郁夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 石丸 園子 TEL 06-6348-3044

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト、機関投資家向け）

(百万円未満四捨五入)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	307,323	2.9	4,992	△47.8	2,395	△65.5	1,573	△83.9
2023年3月期第3四半期	298,738	8.8	9,568	△58.2	6,943	△61.8	9,759	△19.5

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 3,271百万円 (△67.8%) 2023年3月期第3四半期 10,158百万円 (△41.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	17.85	-
2023年3月期第3四半期	109.72	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	584,434	220,914	32.3	2,145.84
2023年3月期	588,906	221,422	32.2	2,146.46

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 189,047百万円 2023年3月期 189,588百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	40.00	40.00
2024年3月期	-	0.00	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	410,000	2.5	8,000	△20.5	5,000	△24.1	1,000	-	11.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — 社（社名）、除外 — 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	89,048,792株	2023年3月期	89,048,792株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	949,646株	2023年3月期	723,040株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	88,095,837株	2023年3月期3Q	88,946,400株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、米国では政策金利を据え置く中、堅調な個人消費が経済活動を下支えしましたが、中国では不動産不況の長期化や消費マインドの低迷により、景気停滞感が続きました。国内においては、自動車生産の回復やインバウンド需要の拡大により、景気は緩やかに回復しました。引き続き、世界的な金融引き締め政策の影響、中国経済の低迷、地政学的リスクの高まりが、景気回復に影響を及ぼすことが懸念されます。

こうした事業環境のもと、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”、リチウムイオン電池セパレータ製造工程で使用されるVOC回収装置は、強い需要に牽引され販売を伸ばしました。一方、包装用フィルムは、需要の回復が遅れ流通在庫の調整が長引き、PCR検査用試薬は、コロナ禍からの正常化に伴い需要が大幅に減少しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比86億円（2.9%）増の3,073億円となり、営業利益は同46億円（47.8%）減の50億円、経常利益は同45億円（65.5%）減の24億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同82億円（83.9%）減の16億円となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しています。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

（フィルム）

当セグメントは、包装用フィルムの需要の回復が遅れ、増収減益となりました。

包装用フィルムは、原燃料価格高騰に対し製品価格の改定を進めましたが、需要回復の遅れにより低調な荷動きが続いたことに加え、新機台立上げの費用が嵩みました。

工業用フィルムは、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”が強い需要に牽引され販売を伸ばしました。セラミックコンデンサ用離型フィルムは、本格的な需要回復には至らず苦戦しました。

この結果、当セグメントの売上高は前年同期比74億円（6.7%）増の1,174億円、営業利益は同5億円（25.3%）減の15億円となりました。

（ライフサイエンス）

当セグメントは、PCR検査用試薬の需要が大幅に減少したことにより、減収減益となりました。

バイオ事業では、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、PCR検査用試薬の販売が大幅に減少しました。

メディカル事業では、人工腎臓用中空糸膜の販売が堅調に推移しました。

医薬品製造受託事業では、FDAからのWarning Letterが解除されたことにより、GMP（医薬品等の製造および品質管理基準）対応費用が減少し、収益性が改善しました。

この結果、当セグメントの売上高は前年同期比41億円（13.8%）減の253億円となり、営業利益は同45億円（56.3%）減の35億円となりました。

（環境・機能材）

当セグメントは、中国向け電子材料での需要回復遅れ、原燃料価格高騰の影響がありましたが、VOC回収装置、エンジニアリングプラスチックの販売が増加し、増収増益となりました。

樹脂・ケミカル事業では、エンジニアリングプラスチックは、自動車生産台数の回復により販売を伸ばし、加えて製品価格の改定が進みました。工業用接着剤“バイロン”は、中国向けの電子材料用途の販売が低調でした。

環境・ファイバー事業では、環境ソリューションは、リチウムイオン電池セパレータ製造工程で使用されるVOC回収装置、および交換エレメントが第3四半期に販売を大きく伸ばしました。高機能ファイバーでは、“ザイロン”は建築補強用途、自転車タイヤ用途の需要が低調でした。不織布マテリアルは、衛材用途や土木・建築用途での販売減に加え、原燃料価格高騰の影響を受けました。

この結果、当セグメントの売上高は前年同期比37億円（4.5%）増の862億円、営業利益は同1億円（2.5%）増の30億円となりました。

（機能繊維・商事）

当セグメントは、衣料繊維事業の構造改革の推進と自動車市況の回復により、増収、営業損失縮小となりました。

衣料繊維事業は、不採算商材からの撤退完了と製品価格の改定が進み収益が改善しました。

エアバッグ用基布事業は、自動車生産台数の回復に伴い販売量が増加し、加えて原料価格の上昇に対する製品価格の改定が進み、収益性が改善しました。

この結果、当セグメントの売上高は前年同期比13億円（1.9%）増の689億円、営業損失は15億円となりました（前年同期は営業損失18億円）。

（不動産、その他）

当セグメントでは、不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は前年同期比2億円（2.7%）増の96億円、営業利益は同5億円（28.8%）増の21億円となりました。

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前年度末比45億円（0.8%）減の5,844億円となりました。これは主として設備投資により有形固定資産が増加した一方で、現金及び預金や受取手形及び売掛金が減少したことによります。

負債は、前年度末比40億円（1.1%）減の3,635億円となりました。これは主として支払手形及び買掛金が減少したことによります。

純資産は、為替換算調整勘定が増加した一方で、利益剰余金が減少したことなどにより、前年度末比5億円（0.2%）減の2,209億円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想については、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”、リチウムイオン電池セパレータ製造工程で使用されるVOC回収装置の販売が好調なもの、包装用フィルム等の需要回復遅れによる収益性の改善が遅れていることから、前回（2023年11月9日）の公表値を下回る見込みとなりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	60,703	27,913
受取手形及び売掛金	88,427	84,327
契約資産	407	139
電子記録債権	12,295	14,846
商品及び製品	75,343	73,738
仕掛品	16,556	20,214
原材料及び貯蔵品	30,002	31,057
その他	15,672	12,429
貸倒引当金	△271	△326
流動資産合計	299,133	264,337
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	54,515	63,751
機械装置及び運搬具（純額）	46,907	59,061
土地	90,816	90,985
建設仮勘定	39,829	48,674
その他（純額）	8,166	8,228
有形固定資産合計	240,234	270,698
無形固定資産	4,633	4,548
投資その他の資産		
その他	46,037	46,129
貸倒引当金	△1,131	△1,278
投資その他の資産合計	44,906	44,850
固定資産合計	289,773	320,097
資産合計	588,906	584,434

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,436	48,292
電子記録債務	5,156	5,295
短期借入金	71,595	54,086
1年内償還予定の社債	10,000	15,000
1年内返済予定の長期借入金	29,472	25,180
引当金	4,956	2,798
その他	27,885	29,635
流動負債合計	202,500	180,286
固定負債		
社債	65,000	60,000
長期借入金	49,099	74,540
再評価に係る繰延税金負債	19,641	19,641
役員退職慰労引当金	239	266
環境対策引当金	12	11
退職給付に係る負債	22,427	21,387
その他	8,566	7,388
固定負債合計	164,984	183,233
負債合計	367,484	363,520
純資産の部		
株主資本		
資本金	51,730	51,730
資本剰余金	32,402	33,187
利益剰余金	70,490	68,529
自己株式	△781	△1,005
株主資本合計	153,840	152,442
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,434	1,454
繰延ヘッジ損益	67	△6
土地再評価差額金	41,435	41,435
為替換算調整勘定	△4,556	△2,048
退職給付に係る調整累計額	△4,632	△4,230
その他の包括利益累計額合計	35,748	36,605
非支配株主持分	31,834	31,867
純資産合計	221,422	220,914
負債純資産合計	588,906	584,434

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	298,738	307,323
売上原価	233,449	242,546
売上総利益	65,289	64,777
販売費及び一般管理費	55,721	59,786
営業利益	9,568	4,992
営業外収益		
受取配当金	256	249
為替差益	390	783
その他	1,178	1,020
営業外収益合計	1,824	2,052
営業外費用		
支払利息	1,003	989
その他	3,446	3,659
営業外費用合計	4,449	4,648
経常利益	6,943	2,395
特別利益		
固定資産売却益	1,198	—
投資有価証券売却益	2,796	3,049
受取保険金	5,607	—
特別利益合計	9,601	3,049
特別損失		
固定資産処分損	2,309	1,605
持分変動損失	—	212
特別損失合計	2,309	1,816
税金等調整前四半期純利益	14,235	3,628
法人税等	4,540	1,936
四半期純利益	9,695	1,692
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△64	119
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,759	1,573

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	9,695	1,692
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,923	△1,885
繰延ヘッジ損益	2	△73
為替換算調整勘定	1,637	2,568
退職給付に係る調整額	4	402
持分法適用会社に対する持分相当額	743	568
その他の包括利益合計	463	1,579
四半期包括利益	10,158	3,271
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,088	2,885
非支配株主に係る四半期包括利益	70	386

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	フィルム	ライフサイ エンス	環境・機能 材	機能繊維・ 商事	不動産	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	109,974	29,320	82,477	67,601	3,124	292,496	6,242	298,738	—	298,738
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	98	34	2,824	462	301	3,718	11,176	14,894	△14,894	—
計	110,072	29,354	85,301	68,062	3,424	296,214	17,418	313,632	△14,894	298,738
セグメント利益 又は損失(△)	2,008	7,968	2,931	△1,793	1,204	12,317	450	12,767	△3,199	9,568

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建物・機械等の設計・施工、情報処理サービス、物流サービス等の事業を含んでいます。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,199百万円には、セグメント間取引消去△204百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,995百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究に係る費用です。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	フィルム	ライフサイ エンス	環境・機能 材	機能繊維・ 商事	不動産	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	117,393	25,262	86,166	68,888	3,073	300,782	6,542	307,323	—	307,323
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,674	79	6,688	848	870	10,158	12,571	22,729	△22,729	—
計	119,066	25,340	92,854	69,736	3,943	310,939	19,113	330,052	△22,729	307,323
セグメント利益 又は損失(△)	1,499	3,485	3,003	△1,546	1,559	8,000	571	8,571	△3,579	4,992

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建物・機械等の設計・施工、情報処理サービス、物流サービス等の事業を含んでいます。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,579百万円には、セグメント間取引消去△407百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,172百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究に係る費用です。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループでは各事業を「収益性」と「成長性」に応じて評価・層別しながら、フィルム、ライフサイエンスおよび環境を特に注力する事業分野として位置付け、各々の位置付けに応じた事業運営を行うため、当社グループの組織体制を変更しました。これに合わせて報告セグメントの区分を見直し、従来の「フィルム・機能マテリアル」、「モビリティ」、「生活・環境」を、「フィルム」、「環境・機能材」、「機能繊維・商事」へ変更しています。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しています。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。